

群馬大学大学院教育学研究科 教育に関する現況調査アンケート 平成19～21年度修了生調査結果報告書

平成24年12月

目次

はじめに

結果

1. 回答者内訳
2. 学修・研究への期待と学修・研究機会の評価
3. 学修・研究に対する達成度の自己評価
4. 授業評価について
5. 教育学研究科の総合評価
6. 平成16～18年度と平成19～21年度の比較

資料 1. アンケート用紙「教育に関する現況調査アンケート」

2. 自由記述

大学院に入って良かったこと、大学院で身に付いたことなど
大学院での教育に対する意見や希望、改善すべき点など

はじめに

教育学研究科では、3年ごとに大学院修了生を対象とした教育に対する評価を実施することとしている。今回の調査対象者は、平成19年度～21年度までの修了生で、指導教員等より現在の勤務先または住所の情報提供があったものである。

教育学研究科では、平成20年4月に、学校教育専攻を発展的に解消して、専門職学位課程教職リーダー専攻(教職大学院)を設置し、修士課程教科教育専攻も教科教育実践専攻へと改められた。したがって、平成21年度修了生が改組後の第1期生となり、今回の調査対象者は、新旧の課程の過渡期にあたる。

修了生59名について、平成24年10月初めにアンケート用紙を郵送し、平成24年11月中旬までに返送された40名のデータを分析の対象とした。質問項目については、資料のアンケート用紙「教育に関する現況調査アンケート」を参照されたい。

結果

1. 回答者内訳

表1 修了年度別回答者数

	回答者
1 平成19年度修了	11
2 平成20年度修了	14
3 平成21年度修了	15
計	40

表2 専修・コース別回答者数

	回答者
1 教育	2
2 教育心理	2
3 障害児教育	3
4 国語教育	1
5 社会科教育	5
6 数学教育	6
7 理科教育	5
8 音楽教育	0
9 美術教育	3
10 保健体育	2
11 技術教育	1
12 家政教育	2
13 英語教育	3
14 児童生徒支援	2
15 学校運営	3
計	40

表3 現在の職業

	回答者	%
1 学校の教員	33	82.5%
2 その他	7	17.5%
計	40	100.0%

表4 教員の勤務先

	人数	%
1 公立小学校	10	30.3%
2 公立中学校	7	21.2%
3 公立高等学校	7	21.2%
4 私立小学校	0	0.0%
5 私立中学校	0	0.0%
6 私立高等学校	2	6.1%
7 特別支援学校	5	15.2%
8 幼稚園	0	0.0%
9 その他・無回答	2	6.1%
計	33	100.0%

表5 教員の採用形態

	人数	%
1 正規採用	30	90.9%
2 非常勤採用	0	0.0%
3 さくら・わかばプラン等	0	0.0%
4 その他・無回答	3	9.1%
計	33	100.0%

2. 学修・研究への期待と学修・研究機会の評価

大学院で学修・研究できると考えられる14項目について、それに対する期待度と各項目ごとに学修・研究の機会があったかどうかを0～3点で評定を求めた(表6参照)。

表6 学修・研究機会の評価

項 目		期待	機会の評定					平均
			0	1	2	3	NA	
1 教育の思想, 制度, 内容・方法等, 教育や学校の在り方に関する専門的な知識を学修すること	人数	16	0	2	8	7	23	2.29
	%	40.0	0.0	5.0	20.0	17.5	57.5	
2 教育の思想, 制度, 内容・方法等, 教育や学校の在り方に関するテーマで研究すること	人数	10	0	1	4	7	28	2.50
	%	25.0	0.0	1.2	4.7	8.2	32.9	
3 子どもの心理, 学習や発達に関する専門的な知識を学修すること	人数	14	0	1	10	3	26	2.14
	%	35.0	0.0	2.5	25.0	7.5	65.0	
4 子どもの心理, 学習や発達に関するテーマで研究すること	人数	4	1	0	1	3	35	2.20
	%	10.0	2.5	0.0	2.5	7.5	87.5	
5 障害を持つ子どもの指導に関する専門的な知識や技能を学修すること	人数	5	0	0	1	5	34	2.83
	%	12.5	0.0	0.0	2.5	12.5	85.0	
6 障害を持つ子どもの指導に関するテーマで研究すること	人数	3	0	0	1	3	36	2.75
	%	7.5	0.0	0.0	2.5	7.5	90.0	
7 教科の教育法や授業実践に関する専門的な知識や技能を学修すること	人数	27	0	5	10	12	13	2.26
	%	67.5	0.0	12.5	25.0	30.0	32.5	
8 教科の教育法や授業実践に関するテーマで研究すること	人数	19	0	1	5	14	20	2.65
	%	47.5	0.0	2.5	12.5	35.0	50.0	
9 教科の内容に関する専門的な知識や技能を学修すること	人数	26	0	0	7	19	14	2.73
	%	65.0	0.0	0.0	17.5	47.5	35.0	
10 教科の内容に関係するテーマで研究すること	人数	20	0	0	6	15	19	2.71
	%	50.0	0.0	0.0	15.0	37.5	47.5	
11 教科以外(道徳, 特別活動, 総合的な学習の時間等)の指導について専門的な知識や技能を学修すること	人数	2	0	1	1	1	37	2.00
	%	5.0	0.0	2.5	2.5	2.5	92.5	
12 道徳, 特別活動, 総合的な学習の時間等の内容に関係するテーマで研究すること	人数	0	0	0	0	1	39	3.00
	%	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	97.5	
13 生徒指導や教育相談に関する専門的な知識や技能を学修すること	人数	7	1	0	6	0	33	1.71
	%	17.5	2.5	0.0	15.0	0.0	82.5	
14 生徒指導や教育相談に関するテーマで研究すること	人数	0	0	0	1	0	39	2.00
	%	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	97.5	

3. 学修・研究に対する達成度の自己評価

達成度の自己評価について、同じ14項目について、どの程度まで学修・研究できたと思うかを5段階で評定を求めた(表7参照)。

表7 達成度自己評価

項 目		期待	評定						平均
			1	2	3	4	5	NA	
1 教育の思想, 制度, 内容・方法等, 教育や学校の在り方に関する専門的な知識を学修すること	人数	16	2	3	8	4	0	23	2.82
	%	40.0	5.0	7.5	20.0	10.0	0.0	57.5	
2 教育の思想, 制度, 内容・方法等, 教育や学校の在り方に関するテーマで研究すること	人数	10	2	2	5	4	0	27	2.85
	%	25.0	5.0	5.0	12.5	10.0	0.0	67.5	
3 子どもの心理, 学習や発達に関する専門的知識を学修すること	人数	14	0	2	8	2	1	27	3.15
	%	35.0	0.0	5.0	20.0	5.0	2.5	67.5	
4 子どもの心理, 学習や発達に関するテーマで研究すること	人数	4	1	1	1	1	1	35	3.00
	%	10.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	87.5	
5 障害を持つ子どもの指導に関する専門的な知識や技能を学修すること	人数	5	0	1	1	3	1	34	3.67
	%	12.5	0.0	2.5	2.5	7.5	2.5	85.0	
6 障害を持つ子どもの指導に関するテーマで研究すること	人数	3	0	0	2	2	0	36	3.50
	%	7.5	0.0	0.0	5.0	5.0	0.0	90.0	
7 教科の教育法や授業実践に関する専門的な知識や技能を学修すること	人数	27	0	4	7	11	5	13	3.63
	%	67.5	0.0	10.0	17.5	27.5	12.5	32.5	
8 教科の教育法や授業実践に関するテーマで研究すること	人数	19	1	3	5	6	5	20	3.55
	%	47.5	2.5	7.5	12.5	15.0	12.5	50.0	
9 教科の内容に関する専門的な知識や技能を学修すること	人数	26	0	1	7	11	7	14	3.92
	%	65.0	0.0	2.5	17.5	27.5	17.5	35.0	
10 教科の内容に関係するテーマで研究すること	人数	20	1	2	2	10	6	19	3.86
	%	50.0	2.5	5.0	5.0	25.0	15.0	47.5	
11 教科以外(道徳, 特別活動, 総合的な学習の時間等)の指導について専門的な知識や技能を学修すること	人数	2	0	1	1	1	0	37	3.00
	%	5.0	0.0	2.5	2.5	2.5	0.0	92.5	
12 道徳, 特別活動, 総合的な学習の時間等の内容に関するテーマで研究すること	人数	0	0	0	0	0	1	39	5.00
	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	97.5	
13 生徒指導や教育相談に関する専門的な知識や技能を学修すること	人数	7	1	3	1	2	0	33	2.57
	%	17.5	2.5	7.5	2.5	5.0	0.0	82.5	
14 生徒指導や教育相談に関するテーマで研究すること	人数	0	0	0	1	1	0	38	3.50
	%	0.0	0.0	0.0	2.5	2.5	0.0	95.0	

4. 授業評価について

大学院の授業について、授業への取り組み態度、観点別及び総合授業評価の面から4段階で評価を求めた(表8参照)。

表8 授業に対する評価

項 目		評定						平均
		1	2	3	4	NA	3以上	
1 授業に対する取り組み態度の自己評価	人数	0	1	13	25	1	38	3.62
	%	0.0	2.5	32.5	62.5	2.5	95.0	
2 授業内容の適切さ (大学院の授業にふさわしいか)	人数	0	1	30	9	0	39	3.20
	%	0.0	2.5	75.0	22.5	0.0	97.5	
3 授業の内容や課題の量	人数	0	3	25	12	0	37	3.23
	%	0.0	7.5	62.5	30.0	0.0	92.5	
4 授業の内容や課題の難しさ	人数	0	4	25	11	0	36	3.18
	%	0.0	10.0	62.5	27.5	0.0	90.0	
5 授業の進め方のスピード	人数	0	2	26	12	0	38	3.25
	%	0.0	5.0	65.0	30.0	0.0	95.0	
6 成績評価基準の明確さ	人数	0	7	22	11	0	33	3.10
	%	0.0	17.5	55.0	27.5	0.0	82.5	
7 説明等の分かり易さ	人数	0	2	24	13	1	37	3.28
	%	0.0	5.0	60.0	32.5	2.5	92.5	
8 質問の機会	人数	0	2	17	21	0	38	3.48
	%	0.0	5.0	42.5	52.5	0.0	95.0	
9 院生と接する態度	人数	0	2	13	25	0	38	3.58
	%	0.0	5.0	32.5	62.5	0.0	95.0	
10 授業の雰囲気	人数	0	1	19	20	0	39	3.48
	%	0.0	2.5	47.5	50.0	0.0	97.5	
11 教科書, 視聴覚教材, その他の授業の工夫	人数	2	4	25	9	0	34	3.03
	%	5.0	10.0	62.5	22.5	0.0	85.0	
12 授業についての総合的評価	人数	0	0	23	17	0	40	3.43
	%	0.0	0.0	57.5	42.5	0.0	100.0	

5. 教育学研究科の総合評価

大学院の授業や研究指導から総合的に判断して、大学院の教育の現況について5段階で評価を求めた(表9参照)。

表9 教育学研究科の総合評価

項目		評 定							平均
		1	2	3	4	5	NA	3以上	
1 教員・スタッフ	人数	0	0	6	14	19	1	39	4.33
	%	0.0	0.0	15.0	35.0	47.5	2.5	97.5	
2 教育・研究の施設・設備	人数	0	5	17	13	4	1	34	3.41
	%	0.0	12.5	42.5	32.5	10.0	2.5	85.0	
3 授業編成や教育課程	人数	0	6	13	13	7	1	33	3.54
	%	0.0	15.0	32.5	32.5	17.5	2.5	82.5	
4 研究指導	人数	0	0	5	13	21	1	39	4.41
	%	0.0	0.0	12.5	32.5	52.5	2.5	97.5	
総合評価	人数	0	0	8	19	12	1	39	4.10
	%	0.0	0.0	20.0	47.5	30.0	2.5	97.5	

6. 平成16～18年度と平成19～21年度の比較

以下では、今回対象とした平成19～21年度と前回対象とした平成16～18年度の修了生の調査結果を比較して、教育の成果について検証する。なお、前回調査時における有効回答者数は38名であった。

表10 教育学部の総合評価(比較)

項目	平均			3以上評価率		
	前回	今回	差	前回	今回	差
1 教員・スタッフ	4.05	4.33	0.28	人数	34	39
				%	89.5	97.5
2 教育・研究の施設・設備	2.19	3.41	1.22	人数	14	34
				%	36.8	85.0
3 授業編成や教育課程	3.22	3.54	0.32	人数	29	33
				%	76.3	82.5
4 研究指導	4.38	4.41	0.03	人数	36	39
				%	94.7	97.5
総合評価	3.65	4.10	0.45	人数	34	39
				%	89.5	97.5

表11 授業に対する評価(比較)

項 目	平均			3以上評価率		
	前回	今回	差	前回	今回	差
1 授業に対する取り組み態度の自己評価	3.29	3.62	0.33	人数 33 % 86.8	38 95.0	8.2
2 授業内容の適切さ (大学院の授業にふさわしいか)	3.11	3.20	0.09	人数 33 % 86.8	39 97.5	10.7
3 授業の内容や課題の量	3.08	3.23	0.15	人数 35 % 92.1	37 92.5	0.4
4 授業の内容や課題の難しさ	3.13	3.18	0.04	人数 35 % 92.1	36 90.0	-2.1
5 授業の進め方のスピード	3.16	3.25	0.09	人数 37 % 97.4	38 95.0	-2.4
6 成績評価基準の明確さ	3.11	3.10	-0.01	人数 33 % 86.8	33 82.5	-4.3
7 説明等の分かり易さ	3.39	3.28	-0.11	人数 35 % 92.1	37 92.5	0.4
8 質問の機会	3.62	3.48	-0.15	人数 35 % 92.1	38 95.0	2.9
9 院生と接する態度	3.49	3.58	0.09	人数 34 % 89.5	38 95.0	5.5
10 授業の雰囲気	3.45	3.48	0.03	人数 34 % 89.5	39 97.5	8.0
11 教科書, 視聴覚教材, その他の授業の工夫	2.82	3.03	0.21	人数 26 % 68.4	34 85.0	16.6
12 授業についての総合的評価	3.21	3.43	0.21	人数 33 % 86.8	40 100.0	13.2

教育に関する現況調査アンケート

アンケートのお願い

このアンケートは、大学院教育学研究科で行われている教育研究に関してその現況を明らかにすることを目的に、修了生を対象に実施するものです。

回答は任意ですが、現在の教育研究の現況を評価し、今後の大学院の在り方を考えるための貴重な基礎資料となりますので、是非ご協力下さい。

群馬大学大学院教育学研究科

A. あなたの大学院修了年度を選んで【 】に○をつけて下さい。

1. 【 】平成19年度 2. 【 】平成20年度 3. 【 】平成21年度

B. あなたが修了したコース・専修を選んで【 】に○をつけて下さい。

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. 【 】教育 | 9. 【 】美術教育 |
| 2. 【 】教育心理 | 10. 【 】保健体育 |
| 3. 【 】障害児教育 | 11. 【 】技術教育 |
| 4. 【 】国語教育 | 12. 【 】家政教育 |
| 5. 【 】社会科教育 | 13. 【 】英語教育 |
| 6. 【 】数学教育 | |
| 7. 【 】理科教育 | 14. 【 】児童生徒支援 |
| 8. 【 】音楽教育 | 15. 【 】学校運営 |

C. 特例措置の適用の有無について当てはまるものを選んで【 】に○をつけて下さい。

1. 【 】特例の適用無し(一般受験による)
 2. 【 】現職教員等の特例の適用有り(教育委員会等の許可を得て受験した教員等)

D. 現在の職業についてあてはまるものを選んで【 】に○をつけて下さい。

D1 現在のお仕事について

1. 【 】学校の教員 →質問D2～D4にもお答え下さい
 2. 【 】学校以外の教育機関(教育委員会、教育施設等) →次頁へお進み下さい
 3. 【 】公務員 ▶ 具体的にお書き下さい
 4. 【 】一般企業 -
 5. 【 】その他 -
 6. 【 】無職 →次頁へお進み下さい

→次頁へお進み下さい

D2 学校の教員の方に 勤務地について

1. 【 】群馬県内
 2. 【 】群馬県以外 ▶

具体的にお書き下さい

都 府
県 道

D3 学校の教員の方に 勤務している学校種別について

- | | | |
|------------------|------------------|------------------|
| 1. 【 】公立小学校 | 4. 【 】私立小学校 | 7. 【 】特別支援学校 |
| 2. 【 】公立中学校 | 5. 【 】私立中学校 | 8. 【 】幼稚園 |
| 3. 【 】公立高等学校 | 6. 【 】私立高等学校 | 9. 【 】その他 |

D4 学校の教員の方に 採用の形態について

1. 【 】正規採用 3. 【 】さくらプラン・わかばプラン等での採用
 2. 【 】非常勤採用 4. 【 】その他

E. 次に、大学院で学修・研究できる内容のリストを上げました。

以下の質問にお答え下さい。

質問Ⅰ

あなたは大学院での教育にどのようなことを期待していましたか。

次のリストの中で、あなたが期待していた内容を選び、項目番号に○印をつけて下さい。

いくつ選んでもかまいません
(複数選択可)

質問Ⅱ

★質問Ⅰで選択した項目についてお答え下さい。

選んだ項目について学習機会・研究指導を受ける機会はどのくらいありましたか。
次の【0】から【3】までの数字の中からひとつ選んでください。

学修・研究指導機会の評価

【0】 まったくなかった

【1】 あったが不足している

【2】 あった(不足はない)

【3】 十分にあった

質問Ⅲ

★質問Ⅰで選択した項目についてお答え下さい。

選んだ項目について、大学院の授業や研究指導によってあなた自身はどの程度まで目標を達成できたと思いますか。
次の要領で5段階で自己評価し、数字を記入して下さい。

自己評価

【1】 努力を要する

【2】 「1」と「3」の間

【3】 おおむね満足できる水準にある

【4】 「3」と「5」の間

【5】 十分に満足できる水準にある

		Ⅱ. 機会(ひとつに○)				Ⅲ. 自己評価 (5段階評価)
1	教育の思想、制度、内容・方法等、教育や学校の在り方に関する専門的な知識を学修すること	0	1	2	3	
2	教育の思想、制度、内容・方法等、教育や学校の在り方に関するテーマで研究すること	0	1	2	3	
3	子どもの心理、学習や発達に関する専門的な知識を学修すること	0	1	2	3	
4	子どもの心理、学習や発達に関するテーマで研究すること	0	1	2	3	
5	障害を持つ子どもの指導に関する専門的な知識や技能を学修すること	0	1	2	3	
6	障害を持つ子どもの指導に関するテーマで研究すること	0	1	2	3	
7	教科の教育法や授業実践に関する専門的な知識や技能を学修すること	0	1	2	3	
8	教科の教育法や授業実践に関するテーマで研究すること	0	1	2	3	
9	教科の内容に関する専門的な知識や技能を学修すること	0	1	2	3	
10	教科の内容に関係するテーマで研究すること	0	1	2	3	
11	教科以外(道徳、特別活動、総合的な学習の時間等)の指導について専門的な知識や技能を学修すること	0	1	2	3	
12	道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の内容に関係するテーマで研究すること	0	1	2	3	
13	生徒指導や教育相談に関する専門的な知識や技能を学修すること	0	1	2	3	
14	生徒指導や教育相談に関するテーマで研究すること	0	1	2	3	

F. 授業評価

あなたが受けた大学院での授業について次の点から評価して下さい。
回答は、当てはまる数字に○をつけて下さい。

		良くない	やや 良くない	やや 良い	良い
1	出席状況等も含め、大学院での授業に対するあなたの取り組み態度を自己評価して下さい。	1	2	3	4
		どの授業も 改善を要する	改善を要する 授業が多い	満足できる 授業が多い	どの授業も 満足できる
2	授業内容の適切さ (大学院の授業にふさわしいか)	1	2	3	4
3	授業の内容や課題の量	1	2	3	4
4	授業の内容や課題の難しさ	1	2	3	4
5	授業の進め方のスピード	1	2	3	4
6	成績評価基準の明確さ	1	2	3	4
7	説明等の分かり易さ	1	2	3	4
8	質問の機会	1	2	3	4
9	院生と接する態度	1	2	3	4
10	授業の雰囲気	1	2	3	4
11	教科書、視聴覚教材、その他の授業の工夫	1	2	3	4
		劣る	やや 劣る	やや 優れている	優れている
12	授業について総合的に評価してください。	1	2	3	4

G. あなたが受けた大学院での授業や研究指導から総合的に判断して、大学院の教育の現況についてどのように評価できますか。

右の各項目について、下記の要領で5段階で評価して数字を記入して下さい。

- 【1】 改善を要する
- 【2】 「1」と「3」の間
- 【3】 おおむね満足できる水準にある
- 【4】 「3」と「5」の間
- 【5】 十分に満足できる水準にある

	5段階 評価
① 教員・スタッフ	
② 教育・研究の施設・設備	
③ 授業編成や教育課程	
④ 研究指導	
⑤ 総合評価	

H. 大学院に入って良かったこと、大学院で身に付いたことなどがありましたらお書き下さい。

I. 大学院での教育に対してご意見やご希望、改善すべき点などがありましたらお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

このアンケートについての
お問い合わせ先

〒371-8510 前橋市荒牧町4-2
群馬大学教育学部 総務係
電話 027-220-7204

自由記述

大学院に入って良かったこと、大学院で身に付いたことなど

- ・ 小学校教諭です。1年目は現場を離れて大学院で研修を、2年目は勤めながら修論指導を受けさせていただきました。とてもとても有意義でした。何より現場を離れて、違う立場から「教育」を見る機会ができたことが良かったです。教育心理学や、西洋思想の専門的な講義がとても役立っています。初任者へも伝えていっているところです。格差、国際社会の中での在り方など、視野が広がったと思います。
- ・ 研究に対する姿勢や厳しさを教えていただきました。自分がいかに無知であったかを知るとともにそこから、学ぶことの大切さ、知識を増やし、それを活用し、学校教育に役立てていく、すべを学ぶことができたと思っています。大変貴重な2年間でした。
- ・ 時間にゆとりが持てた、また、先を見通して自分で計画的に進めていくことを学ぶことができた。
- ・ 指導教官に丁寧に指導いただき、県内外の教育実践に触れることができて良かった。学部での4年間を終え、現場に出るのではなく、院で2年間、現場を意識し目を向けて実践、研究できたことは貴重な時間、学びとなった。具体的に〇〇の知識が身についただけでなく、実践を省察し、仮説を立てたりといったより根幹に近い所を学んだように思う。
- ・ 先生方をはじめ、多くの人と出会い、交流。専門的知識。
- ・ 分からないことや課題に当たったときの解決方法が身についたように感じています。(資料文献の調べ方、取り寄せ方、外部機関への協力依頼の仕方、情報や自分の考察の整理の仕方など)
- ・ 大学院で身につけたいと思っていた教科に関わる力を付けることができ、非常に有意義な時間を過ごすことができた。特に授業実践に関する研究ができたことが、現在教壇に立つ上で役立っている。
- ・ 教科教育の専門性とともに幅広く知識や思考する力を得られたところ。教科教育のみならず、教員や同期のメンバーとのつながりが出来、人間としての教養と身に付けられたところ。
- ・ 自分の主張を述べる機会に恵まれた。学部生時代よりも充実した研究ができた。社会に出る前に、多くの教育関係以外の人々とのつながりをつくることができた。
- ・ 専門的な研究に費やす時間がとれた。教養を深められる多くの学びの機会がとれた。
- ・ 自分の専門分野その周辺の分野について、一方的に教えてもらうのではなく、自主的に調べ学んでいく姿勢、他者と意見を交わす面白さを学びました。
- ・ 数学、数学教育に関する専門性が高まった。自分自身の研究をする時間が十分にあった。研修に参加する機会を多く持てた
- ・ 専門教科についてより深く学ぶことができた。心理学や子どもの学習、発達など幅広く学ぶことができた。現場では学ぶことができないことを経験できないことを経験することができた。
- ・ 教育に関する研究は奥が深く、様々な研究が行われていることが知れたこと。例えば、国際会議に参加できたりタイのコンケン大学へ勉強させてもらえたりしたことなど、教授の方々の深い知識と経験を教えて頂いたことなど。授業に対する視点の多さや考え方について、人がどのように理解できるのか、そのモデルについて、教育に対する考え方と多様な知識が教育には必要であるということ。勉強、研究に対する姿勢など。
- ・ 広い視野、深い専門性、様々な視点で御指導いただきました。また、教授、スタッフには大変あたたかく接していただき、気持ちよく研究や授業に臨むことができました。ありがとうございました。
- ・ 専門の教科の研究では、岡山の研究者用施設を使わせていただいたり、多くの場で口頭発表の場があったりと、良い環境で研究にうちこむことができました。指導教官がつきっきりで色々和指导してくださったのが有難かったです。様々な場所で研究発表をさせていただくことで、多くの人の前でも堂々と話せるようになったと思います。
- ・ <良かったこと> 尊敬する恩師とより深く関わることができ、机上の知識だけでなく、問題解決の手立てや、人間関係の構築等にも触れることができたこと。高い志を持った院生、特に他教科の院生との関わりの中で、互いに刺激し合い、高め合うことができたこと(ストリートや現職の教員等)、研究課題について、集中して取り組める、時間的、人的、設備的等の環境が整っていたこと。<身についたこと> 専門的知識。下級生、部下等への指導力。イベント等の運営・協力法。論文の書き方。
- ・ 現場に出ると新たに教材開発をする時間があまりないので、修士論文テーマを教材開発にも関わるものにして、研究できたので良かった。
- ・ 背伸びをして大学院でお世話になったことで、最先端の研究に触れたり、学問の成り立ちや体系などがぼんやりと見えたように思います。中学校の教科指導を行う上で、自分の専門教科以外の教科の見方、考え方などが、学部卒業時よりも分かるようになったと思います。基本的～応用的(高度?)な実験に態度や方法も身につけがで、安心して生徒実験を行うことができています。
- ・ 大学院で他大学の学生や教授と交流することが多く、様々な人と接することで自分の幅を広げられたと思います。また、1つの事に集中して取り組むなど、大学院でしか経験できなかったと思います。
- ・ 時間が充実していた。研究について考える時間、その周辺について考える時間、そこから派生して様々な考えられる時間があり余裕があったことが貴重であったと思う。身についた力は、コミュニケーション力だと思う。
- ・ 大学院では、現代の図工、美術教育の現状や課題について考える時間を十分に与えて頂きました。現場に出て「子どもたちに身につけるべき力は何なのか」、また「その力を身につけさせる為にはどのような指導をすべきなのか」という基本的な考え方が自分の中にあったことが、大変今の指導に役立っていると思います。
- ・ 「学び」グセができた。課外活動でチャレンジする機会が与えられたこと。
- ・ 専門的な研究と、教科に関する知識について多く学ぶことができた。
- ・ 学部時代に学んだことを更に深く学ぶことができた。教員ではなく、事務として学校現場で働いているが、大学時代の知識が役に立つこともある。
- ・ これからずっと教員としてやっていく心構えをする期間になりました。学部生の時よりも他専修生と関わる機会が増え、自分の専修している教科だけでなく、他専修のことも知ることができました。自分の人生について考えることができた。
- ・ 大学卒業後、15年たってからの大学院での生活であったため、正直大学レベルの内容もままならない所もあったが、少人数の院生に対し、先生方が密に熱心に御指導して下さったので、自分のレベル合わせてもらえ多くのことを学べた。教授法の理論だけでなく、関連した様々な分野を久しぶりに学べて、充実していた。また、教わる側の気持ちになれた。論文を書くため、多くの論文を原文で読むことでどっぷりと英語につかることができた。また、日常の授業では触れることのない科学的な論文の形式や内容などを知ることができた。改めて自分に足りないものを自覚できた。

- ・ 自分の研究したいテーマに関することを様々な面(論文研究、実践、昭和村での取り組み、附属幼稚園での実践等)から勉強できたこと(担当の先生方にかなりお世話になりました)はとても充実していました。自分の勤務地管内ではない、他校の取り組みについて実践を通して知ることができたことは、とても勉強になりました。学校運営に関する講義を受け、運営という大きな視点から学校を考えることもとても勉強になりました。45分間という授業の中での自分の指導について、細かく振り返ることができ、この反省を現在の授業実践で日々生かせるよう、心がけています。
- ・ 自身が実践や業務を行う際に、感覚的でなく理論のベースを求めたり、これまでよりも広い視野で課題発見、解決へのプロセスを探れるようになった。専門的な知識を持つ先生方に囲まれ、自身が課題としている部分を追求できたこと。先生方や、ともに学んだ仲間などが、それぞれに経験や考えを交流する時間が授業の中であり、刺激を受けるとともに人脈も広がったこと。
- ・ それまでは、一般教員として学校というものをながめ時に、管理職批判などをしていたが、大学院での学びを通じて、学校運営という視点から学校をとらえることができるようになったと思う。・実習等を通して、多くの学校を訪問し、それぞれの学校の雰囲気(教員、管理職。環境、地域などによる)を肌で感じとることができたこと。(視野が広がった)
- ・ 大学を卒業して以来(20年くらい)、大学や大学の教授とかかわることが全くなかった。だが、教員になり(学生の時と立場が変わり)教授とかかわった(大学で学んだ)おかげで、広い見方ができるようになったように思う。それまでは全く知らなかった県内各地の力のある教員仲間と知り合えたことも大きい。ストレートマスターがいたことで、教師をめざす前向きな若者の姿を近くで見たことによりあらためて中堅教員としての自分の立場を見つめることができた。2年目はとても忙しかったが、それでも貴重な2年間だったので、学んだことを仕事に生かしていきたいと思っている。

自由記述

大学院での教育に対する意見や希望、改善すべき点など

- ・ 総じて講義は興味深く、DVDや実践例の書籍など教材もわかりやすかったです。図書館でPCを使えたり、本をかりられたりするので良かった。授業の雰囲気が「3」なのは、学生側にマナーの面で直してもらいたい点が多々あったからです。（教室の引き出しの中にお弁当のゴミがあったり、講義中、隣の教室で机に腰掛けてトランプで大声で盛り上がっていたり、ペットボトルのジュースを飲みながら講義に参加したりする学生が、当たり前のような感覚なので、社会人としては正直ギャップを感じました。校内にも、幾つか貼り紙があったのでご苦労されているんだなと思いました。）在学中は、大変お世話になりました。
- ・ 自分にとっては厳しく大変な日々でした。何をして良いかわからず、右往左往した事もありました。しかし、もし、遊び半分で研究をしていたら、意味の無い期間になっていたと思います。お世話になった先生方には、現在も、とても感謝しております。今後も同様に御指導していただきたいと思っています。
- ・ 現場に出てから、コミュニケーション力を高める必要性を感じます。学部、大学院の段階であらゆる専攻の人、場合によっては、他学部の人とディスカッションをする機会を多く設けても良いと感じます。開かれているようで、閉塞感もある学校現場ですから、養成段階で様々な実践や考えがあること、そこに目を向けていくことが習慣づきような、カリキュラムがあると嬉しいです。
- ・ 講師や学生含め「人」は非常に魅力があり。そろっていると思います。現時点では、以前よりも改善されてきたようですが「設備・施設」がこれまで以上に整備されてくると、よりよい大学院ひいては群馬大学になると思います。教育内容は非常に素晴らしいものだったと思います。
- ・ 教科教育研究について、もう少し学外に出る機会をつくって、研究が外に開かれた意義のあるものとなればと思います。
- ・ 授業総合演習は、単発の本時だけの授業であると、子どもの実態をふまえた授業作りができなかった。できれば、教育実習と同様に大学側から直接実習先の学校と交渉した方が合理的である。
- ・ もう少し早く、小の2種免の制度があればありがたかった。
- ・ 県のセンターとはちがったより専門的な研究ができるような環境であってほしい。
- ・ 授業への取り組みや論文の内容等を含め、修了を認めるに値しないものがあったのではないかな。もっと厳しい目で判断すべき。
- ・ 私を指導して下さった教授の方々、大変素晴らしい指導をしてくださいました。今後とも、変わらぬご指導を後輩たちにして頂ければと思います。大変お世話になりました。
- ・ 現場に出てからの必要な生徒指導の仕方、保護者への対応などを詳しく教えてもらいたかった。
- ・ 先生方が学生のことをよく見てくださっているのがとても伝わります。この先、先生方が入れ替わっても、続いてほしいです。
- ・ 私が大学院に入学した年度は、専門的分野だけでなく、教育法も徐々に取り入れるところであったので、教員の指導や論文等、成果の取りまとめ方も、統一性に欠けていました。私の師は、両方面に対しても尽力してくれ問題はありませんでした。が、統一した方が良いと思います。
- ・ 3年間の教科の指導計画や各題材の関連の持たせ方、生徒指導、進路指導、子どもの心のケア、いじめ対応などを学習しておくで現場で力になると思う。事例研究をたくさん学部中にできるとよい。
- ・ 教員養成学部で大学院（修士）という場が、何を目的に設定してあるのかを、修了後によく考えました。特に、教科教育専攻の場合、「何を」学ぶのか、学ぶべきなのかが不明瞭だなと感じました。これは、大学院のコンセプトだけではなく、自分自身の問題でもあります。現在博士課程にいますが、研究の仕方をほぼ学ばずに進学してしまい、非常に苦勞をしたからです。「教育」、「学習」、「発達」における知識や研究方法が、教科教育とどのように関連づけられるのかを、大学院時にもっと学ぶべきであったと考えます。修論で苦しみました。希望としては、自分の専門領域(教科の)だけではなく、その上のカテゴリーである「学習」や「教育」についても学べる機会があるといいなと思いました。私自身は、不まじめな院生だったので、一番の問題は自分自身の動機付けにあることは否めませんが。より良い大学院教育がなされることを期待します。
- ・ 特にはありません。自分が院生の頃は教育棟が改築工事をしていた、引越などで時間をとられたり、設備が不十分だった点がありますが、今の新築校舎では、そのような問題もないかと思われます。学生の人数は同学年（同専修）に複数人いた方が、議論が交わって考えも深まるかと思われます、自分の代は一人だったもので。
- ・ 施設・設備をより充実させてほしい。
- ・ 専門教科について、多くの実験や実習を行える機会があれば良かった、専門外のものについては、専門教科の人を中心に話がすすめられてしまうことが多いので、もっと基本的なことを教えてもらえる機会があると良かった、課題は、学部、院ともに少ないと思う。
- ・ 私が大学院に入学した年度に、教職大学院が開校しました。大学院と教職大学院の位置付け、違いがよく分かりません。学生同士の交流等もっとあればと思いました。
- ・ 院生が大学卒業してストレートで入学すると、授業の経験がほとんどないため、理論と実践が結びつかないが、現職教員としては、もう少し実践に結びつけた授業も1つくらいほしい（大学院なので理論はしっかり勉強したいので、あくまで1つくらい）。そのためには、大学の先生方に現場（小中高）に対する理解者が増えて欲しい（大学の先生方に「一緒に考えていく」姿勢が増えることを望みます）。制度面での希望ですが、2年次にも現場復帰すると、論文作成が非常に困難です。論文の質も下がります。2年次も学生の身分の保障を望みます。
- ・ 卒業後もさまざまな情報を提供していただき、ありがたく思っています。